

消防署だより

名所 歴史紹介

河芸公署の巻

はだか男達が「ざる」を奪い合うという勇壮な祭り「ざるやぶり」。河芸町一色地区の八雲神社に伝わる神事で、戦国時代の故事が起源といわれています。

七月十五日の夜、ふだんは静かな神社付近の狭い道は、数十の夜店と浴衣姿の参拝者で大変な賑わいとなります。午後八時頃に打ち上げ花火を合図に、拝殿前にふんどし姿の数十人の男達が集結し、やがて「わっしょい わっしょい」のかけ声で身体をぶつけ合つての激しいもみ合いが始まります。その周囲は千人ほどの見物人が十重二十重に取り囲み、照明の下ではだか男達の体から汗と熱気がほとばしり、まわりの世話人達が水桶の水を間断なく浴びせます。二十分ほどのもみ合いのあと、男達は境外へ出て、一時休憩し、十分後、再び境内になだれ込んで二回目のもみ合いを行います。動作は次第に激しくなり、興奮した男達は拝殿にかけ上つて一斉にかけ声をかけ続けます。再

び休憩に入った間に、本殿前に予め竹の「ざる(直径三尺)」とともに供えられていた洗米の小袋が見物人達にも授与されます。そして、午後九時過ぎ、三回目のもみ合いが始まり熱気が最高潮に達した頃、頃や良しと神前の「ざる」が総代の手からはだか男の集団の中に手渡され、男達は重なるようにしてざるの竹を引きちぎり、竹片を奪い合います。激しい争いは午後九時半頃には終了し、竹片は周囲の人等にも配られて、ようやく訪れた夏の夜の冷気の中を持ち帰って御守りとなりますが、噛めば特に歯痛に効くといわれています。



ざるを奪い合うはだか男達

地元の一色地区では保存会を結成し、約四百五十年続いてきたとされる神事の維持と活性化を図っています。

私たちの職場は

私たちが守る

職場防災競技会を開催

津市防火協会

秋のさわやかな青空のもと、十月十八日に津市防火協会(吉川晴会長・会員四百九十三事業所)では、北河路町のメッセウィング・みえにおいて、職場防災競技会を開催し、津市消防本部管内の三十一事業所から五十五チーム百十名が、消火器や屋内消火栓、また救急法の三種目の競技に参加して、日頃の訓練成果を披露しました。

この競技会は、事業所においてのより強固な自衛消防隊の組織づくりと防火・防災危機管理体制の充実強化を目的に、有事の際の一・九番通報、屋内消火栓などを



消火器の部



屋内消火栓の部



救急法の部

使用しての初期消火や負傷者の救出、また救急法では心肺停止などの負傷者に対し、人工呼吸胸骨圧迫とAED(自動体外式除細動器)を併せた心肺蘇生法等の安全・確実・迅速性を競いました。

審査の結果、入賞された事業所は次のとおりです。

【消火器の部】

- 最優秀賞 〓 中部電力(株)三重支店・優秀賞 〓 三重交通(株)・松下電工(株)津工場
- 努力賞 〓 医療法人暉純会榊原温泉病院・三重ダイケン(株)河芸工場・(株)アンゼイ三重工場Aチーム

【屋内消火栓の部】

- 最優秀賞 〓 三恵技研工業(株)安濃工場Aチーム
- 優秀賞 〓 松下電工(株)津工場・JFEエンジニアリング(株)津製作所・クレハエラストマー(株)津工場
- 努力賞 〓 井村屋製菓(株)Aチーム・豊国製油(株)三重工場・中部電力(株)三重支店

【救急法の部】

- 最優秀賞 〓 山下ゴム(株)三重工場
- 優秀賞 〓 三重県文化振興事業団Bチーム・社会福祉法人いりどり福祉会・シャープ(株)三重
- 努力賞 〓 三恵技研工業(株)安濃工場・旭電器工業(株)・日本板硝子(株)津事業所